

大 阪 人

48期生

I テーマ設定の理由

大阪人は日頃からマナーが悪い、と言われている。また、東京にはない大阪だけの習わしがあるとも言われている。そのことが本当か実証するために、また、それらが何故か、という疑問を解決するために、夏休みの機会を生かしていきたいと思い設定した。

II 研究方法

- (1) 文献調査 東京との比較をする。また、大阪の文化についても調べる。
- (2) 実地調査 大阪、天王寺、堺東、岸和田の4都市で、歩行速度を調べる。
- (3) アンケート 相合い傘、たこやきの値段、ベッタン形の地域差を調べる。

III 研究内容

調べた項目は以下の通りである。

- 歩く速さの地域差
- たこ焼きの伝統
- たこ焼きの値段の地域差
- 東京との比較 { 歩道のフライング
エスカレーターのマナー
列車の乗り方 他
- 相合い傘・ベッタンの地域差
- 大阪発のヒット商品
- たこ焼きの美味しい店
- 大阪の食べ物

① たこ焼き関連

たこ焼きは急速に発達している産業であり、また昔から伝わる大阪の伝統である。また、タイやベトナムでも「サムライボール」という名前で日本企業が進出している。

大阪では、ドライブスルー付のたこ焼き屋もある。調べたところによると、たこ焼き1個の値段分布は、都心部、淀川付近が少し割高で、泉南が少し割安といった程度で、あまり相関性がない。たこ焼きの原材料も、変わっているものを少し記しておく、トッピングにマヨネーズ、中身は肉やチーズ、ソバなど。味付けには酢じょうゆ、しょうゆ、ケチャップなどがあつた。最近では、JALの関空発の国際線機内食、JR九州の特急つばめにもたこ焼きがデビュー。たこ焼き1つあたり、平均1個23円、平均直径39.3mm、最大直径55mmのものもある。



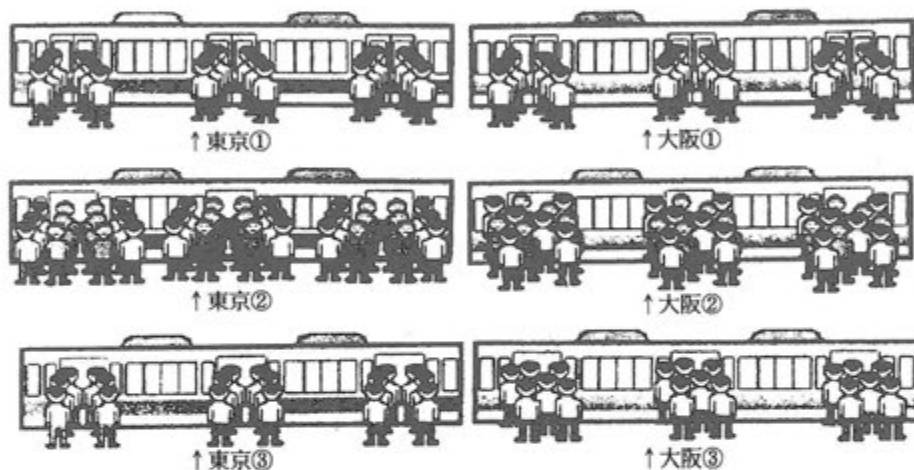
▲図1 たこやきの構造 (調べたものすべて)

② 電車の乗り方関連

大阪の人は並ばない、というのは過去の風習のようになっている。ただ並ぶのもドアが開くまでで、開くと一気に押し込み、となる。「押し屋」と称するアルバイトがいるのも特徴。その点東京では、降りる人の道をきれいにあけて、人が降り終わったあと乗るのが普通。ウソのように美しい。ただし、東京の方が列車が長いのもあるだろう。しかし、大阪式押し込み乗りの方が速く乗ることができて、あまり遅れない。下に模式図を示すが、大阪の方のモデルは、大阪環状線京橋駅、東京は、地下鉄半蔵門線渋谷駅である。



▲模式図の凡例

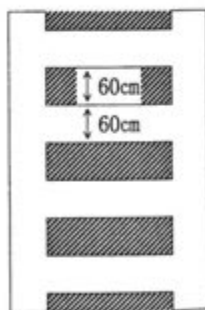


▲図2 東西電車の乗り方比較

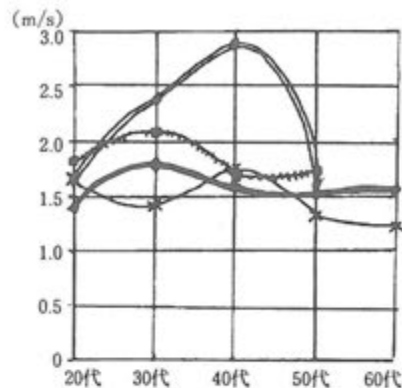
明らかに大阪の乗り方の悪さが分かることだと思います。東京の人は二列に並ぶことが常識と思っている。大阪でも、「整列乗車キャンペーン」のお陰で、並ぶようにはなってきたものの、ドアが開くとただの人山である。ただし、東京の方が列車が長い。また、乗るのに時間がかかるので、一両に6つも扉のある「6扉車」が導入されていたり、座席なし車などがある。大阪でもないわけではないのだが、まだわずかである。

③ 歩く速さ

大阪府内4ポイント（大阪・天王寺・堺東・岸和田）の駅前歩道橋を利用して、人の歩く速さを測定する。歩道橋の白帯、黒帯の部分それぞれ60cmなので、それから長さを求める。4ヶ所とも、おおよその年齢を調べ、男女各20ずつランダムサンプリングする。それによると、どこの駅前でも30代~40代層の速さということがわかった。また堺東駅前には特に速く、天王寺は特に遅かったが、全体的な相関性を見ると、府庁から離れるほど、速さが速くなる傾向がある。ただし、横断歩道の性質上、乗り換え客が多いとか、商店街があるなど、条件が多少異なっていて、急ぐ、急がないという条件差があることはもちろんである。



▲図3 横断歩道



● 堺東 ■ 大阪 ◆ 天王寺 -x- 岸和田

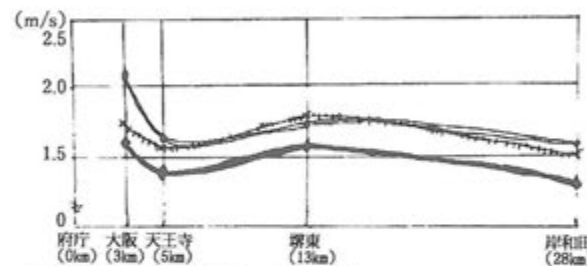
▲グラフ1 年齢と速さ

右のグラフより、都心部の方が速いことがわかる。岸和田駅は庶民性が強く、商店街の入口でもあるので、女性の比率が高い。

左のグラフより30~40代層が速いことがわかる。また、堺東が例外的に速いのは、バス停留所と駅の間だから、あるいは郵便局や市役所や商店街があるからではないか。ただし、どこのポイントでも、午前10時、晴の日を選んで測定している。

データ

大阪	37.2m
平均	1.95m/s
天王寺	26.4m
平均	1.54m/s
堺東	20.4m
平均	1.84m/s
岸和田	9m
平均	1.48m/s



● 20代 ◆ 30代 -x- 平均

▲グラフ2 府庁からの距離と速さ

④ フライニングの現状

大阪駅前のフライニングは全国一であることは言うまでもないが、いろいろを抑えるために、信号待ち時間が表示される「信号待ち時間表示器」がついている(写真1)。全国的な珍品。5秒単位で表示される。そのような立派な機械がついていても、フライニングをする人がいる。大阪の立派な名物となってしまった。残念だ。僕が考えるフライニングの道理とは、「車が来なければ大丈夫」だと思う。ただでさえ車の多い交差点でもおかまいみだから大阪人の気の強さには感心する(写真2, 3)。



▲写真1



▲写真2・3 フライニングの現状(大阪駅前)

⑤ 相合い傘の地域性



▲地図1 相合い傘の地域性(全体)

相合い傘には地域性がないかどうか調べてみた。出身小学校別に集計したのは、附小出身の場合、小学校の時から統一されていて、地域性には関係ないと思ったからだ。調べた結果を地図上にプロットしてみると、附小出身者の地域差が大きくおどろいた。全体のデータより分かることは、都心部は♡のないものが多く、郊外に出ると♡がでてくる。三角形の中の棒が貫通している地域としては、大阪市南部、堺市、八尾市などである。ただし、このデータはあくまでも最寄駅をプロットしたもので、必ずしも正確とはいえない。



▲地図2 相合い傘の地域性(附小出身者)

左の場合は附小出身者の場合の地域差である。この場合、北部は非貫通、南部は貫通形と地下鉄中央線付近で二分されている。♡なし非貫通は存在しない。しかし、サンプル数が少なかったのが残念。

⑥ ベッタンの地域性



▲地図3 ベッタンの地域性

ベッタンというものの形には主に四角と丸がある。その分布が気になったので調べてみた。ただし、昔のおもちゃなので、知らない人が9%を占めていた。また、附小で行なわれた形跡すらないので、全体的な分布としてとらえてみた。回答には主に3パターンあり、丸グループ、丸・四角グループ、四角グループに分類された。一番多い回答は丸グループだった。分布の特色は丸グループ(●)が郊外から都心部まで幅広く分布しているということ。また郊外で占める割合が高い。丸・四角グループ(▲)も多いが、都心部周辺の分布にとどまっている。最後に四角グループ(■)の分布だが、大阪東部のうち、北部を中心とした京阪沿線のみのもので、完全な地域的分布といえるだろう。この分布に一番多い丸グループは、もちとの関係が

深そうだ。なぜかという、関西では、一般に丸いもちをつかうが、関東ではふつう四角い切りもちを使う。これはやはり、ベッタンの分布が多い丸グループとの関係があるのだろう。

⑦ その他大阪の特色

食べ物について少し見ておきたい。名物イカ焼きは、大阪と異なり東京では、ただのイカの姿焼きで、一匹400円もする。おなじみのインスタント食品、「どん兵衛きつね」(日清食品)の場合、東京ではかつおだしにこいくちしょうゆで、コクがある。しかし大阪の場合、煮干しとコブだしで、あっさりとしている。同じ包装でもその土地の舌覚に合った味付けがされている。また、ラーメンの「好きやねん」(ハウス食品)の場合、東京にいくと「うまいっしょ」という名に変わる。元来は九州ラーメンなのに、「好きやねん」といった大阪弁の名前が付いているのも、商売上手の大阪人ならではの。

また、大阪人は数々の有名な発想をし、商品化している。例を挙げると、マルビル、正露丸、プレハブ住宅、インスタントラーメン、駿々堂、トマト一株で一万三千個の実を実らせるハイポニカ法というものなど多種多様だ。今の日本を支える重要な商品だ。

そして、値切るのも立派な文化だ。日本橋などの電器店の定価はあっていないようなもの。値切るのは常識となっている。市場なども値切る最高の場所。しかし、東京では値切るとなると、プライドを捨てるのも同然。定価を尊重する。大阪人の一部は百貨店でも値切るというからすごい。以前、那覇空港に「関西人の方にはお売りできません」という札があったほどだ。このような文化は今後衰退していくのか、また残るのか注目すべき点である。

V 総括

大阪人という人々は全国の他の人と比べると、たくさんの特徴があり、また文化もたくさん持っていることが分かった。また、大阪という地域内にもたくさんの特徴があり、地域としての文化が確立している。関西国際空港の開港で、大阪文化が世界に広がっている。日本国内でも理解されつつある大阪文化をもっと日本中で認めてほしい。また、ともに、全国各地の文化を理解しあい、地域の特徴をアピールしあうことが必要だと思った。

・参考文献

- ・辻本一義（？）「大阪発ヒット商品学」ヒューマガジン
- ・TBSウォッチャー（？）「東京 vs 大阪」ワニブックス
- ・ピアまんぶく研究会（1995）「本当においしい店③ お好み焼」ピアBOOK
- ・JTB 日本交通公社出版事業局（1993）「るるぶ東京」JTB
- ・JTB 日本交通公社出版事業局（1992）「るるぶ大阪」JTB
- ・別冊山と溪谷（1988）「神戸・大阪 歩く地図の大特集」山と溪谷社
- ・昭文社（1995）「マップルマガジンA20 大阪」昭文社
- ・黒田 清（？）「そやけど大阪」東方出版
- ・大阪市 大阪都市協会（？）「大阪学講座 なにわ物事起源」
- ・彭 飛（？）「大阪ことばの特徴」和泉書院
- ・小松左京（？）「大阪人の発想」オーエス出版
- ・昭文社（1986）「分県地図27 大阪府」
- ・Osaka Municipal Transportation Bureau（大阪市交通局）（1995）
「Guide To Transportation Between Kansai International Airport And Osaka」

以下資料映像

- ・TBSウォッチャー
- ・NHK日曜フォーラム